



馬耳東風

「夜をこめて鳥の空音をはかるとも世に逢坂の関はゆるさじ」。小倉百人一首の一つに選ばれたかの有名な清少納言の名歌である。前半は、夜の明けないうちに、鶏の鳴き声をまねしてだましても、と言う意味である。我が国では神代の昔から鶏の鳴き声は夜が明けた合図として使われてきたようだ。当時の鶏がどのような鳴き方をしていたのか文献的に記録は見あたらないので定かではないが、多分現在と同じくコケッコウと鳴くであろう。

日本では誰もが鶏はコケッコウと鳴くという。またそのように聞こえることも間違いない。ところが世界は広い。外国の鶏はそうは鳴かないのだ。ご存じ英語ではコッカドゥードゥルドゥーと鳴く。まあ似ているような気もするが、文字で表すとかなり違う。以前ナイジェリア出身の友人に聞いたら、ナイジェリアではサカーラヤーイクターラと鳴くという。これにはびっくりした。エッ今が鶏？と耳を疑った。私は自分の耳に自信がないので、正確にその様に発音したのかどうかははっきり表現することは難しいが、とにかく日本の鶏とはかなり異なる鳴き方をするらしい。フランスでは日本と似ていてコッケリコーと鳴く。そのお隣のドイツではちょっと異なりキッキリキーと鳴く。何処かの漫才師がよく使うギャグに似ている。お疑いなら辞書を引いていただきたい。聞

きようによってはキッケリキーとも聞こえるが、綴りは kikeriki である。フランス語の影響が強いヴェトナムではフランス語つまり日本語にも似ている鳴き方かなと思ったら、オーオーオーときた。これはどうやら大陸続きで中国に似ている。中国ではウーウー（口偏に矢と書いて重ねる）と表現しているようだ。あの狭いスイスでは四通り以上の表現があると聞いた。そりゃそうだろう。あの国では住んでる地域によりフランス語、ドイツ語、イタリア語、英語その他と使い分けているからだ。鶏も住んでる地域で鳴き方を変えるなんてこれは面白いと思った。いやそれは間違いだろう。何処の国でもまた何処に住もうと鶏は鶏で同じ筈であるから聞き手が違う受け取り方をしているだけの話だろう。英語で犬はパウワウと吠え、猫はミャオーと鳴く。我が国では居眠りはゲーゲーだが、アメリカではZZ……となる。音声を聞く耳とは不思議なものだ。

話は全く逆だが、英語で書いてある通りに発音してもなかなか通じ難いことがある。切符を買う窓口で West-kennsington は上杉謙信と発音した方が通じるとその昔英語の教師から聞いた。事実レストラン等で水を頼む時「藁！」と叫んだ方がわかりが早い。あるアメリカ人が日本で朝の挨拶は自分の州の名を言えばよいと聞いてケンタッキーとやっちゃった。彼はオハイオ州の隣の州出身だったのである。 (子)